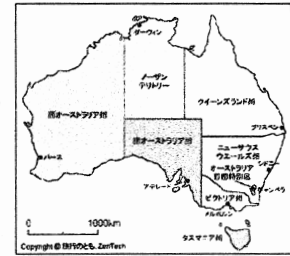


## 海外研修報告

### オーストラリア海外研修報告(言語力・コミュニケーション力の育成)

#### I 研修の内容

教育課題研修指導者海外派遣プログラムの一員として、12月1日から12月12日までの12日間、オーストラリアを訪問した。



##### 1 調査団の研究課題

- (1) 言語力・コミュニケーション力を育成する授業作り
- (2) 言語力・コミュニケーション力を育成するシステム・教育課程
- (3) 言語力・コミュニケーション力を育成する学校と地域の連携

##### 2 調査団の調査方法

**学校関係** ティンデールクリスチャンスクール(私立幼小中高一貫校) ガイメアベイパブリックスクール(公立小学校) キラウィーハイスクール(公立中高等学校) ウェラーズヒルステートスクール(公立小学校) 他

**関係機関** ニューサウスウェールズ州教育省 クイーンランド州教育省  
クイーンズランド州立図書館 児童施設

#### II 研修の成果と考察

##### 1 オーストラリアの教育制度

オーストラリアでは、小学校就学前に1年間、プレップなどと呼ばれる準備級が義務またはほぼ義務として用意されている。その後の、初等教育6年間(または7年間)と前期中等教育4年間(または3年間)の10年間が義務教育となる。義務教育修了時には修了証が与えられる。義務教育修了後、後期中等教育が2年間用意されている。後期中等教育修了時には修了試験があり、それに合格すると、修了資格を取得し高等教育進学が可能となる。

新学期は1月下旬から2月初旬に始まる。学年末は12月。4学期制で週休2日制。各学期は約10週間で、学期と学期の間には2～3週間の休みがあり、12月から1月にかけて約6週間の夏休みがある。

以上のように、オーストラリアの教育制度は学びの質を高めることを重視しており、長いスパンで教育制度を考えていくようにしているものと考えられる。

##### 2 オーストラリアの授業

「児童の興味」、「学習意欲の喚起」という視点を大切に、どの教師も授業を行っている。汎用的能力の育成を重視して、様々な教科で「リテラシー：literacy(読み書き能力。与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。・コンピューターリテラシー・情報リテラシー)」や「ニューメラシー：numaracy(数学的リテラシー)」、「学習評価」に力を入れている。また、日本での「伝統と文化の尊重」に対応するものとしては、「領域横断的優先事項」がある。それは、先住民(アボリジニ及びトレス海峡諸島民)や環太平洋地域などについての視点である。視察校では、タブレットを個人持ちで1台用意し、調べたことをまとめてプレゼンテーションしたり、グループで動画を撮影して成果物を共有したりしていた。また、ほとんどの授業がペアやグループの形態を取っていた。小学校1年生から教育課程の半分を日本人教師による日本語での授業を行っている学校もあった。

日本と共通することが多くあり、目指す子ども像には国境が無いと考えた。

(甲州市立塩山南小学校 甘利志賀峰)

## 海外研修報告

### オーストラリア海外研修報告（言語力・コミュニケーション力の育成）

#### I 研修の内容

教育課題研修指導者海外派遣プログラムで、12月1日から12月12日まで、オーストラリアの言語力・コミュニケーション力の育成について研修を行った。

##### 1 研修調査団の研究課題

- (1) 言語力・コミュニケーション力を育成する授業づくり
- (2) 言語力・コミュニケーション力を育成するシステム・教育課程
- (3) 言語力・コミュニケーション力を育成する学校と地域との連携

##### 2 調査団の調査対象

学校関係 ティンデルクリスチャンスクール（私立幼小中高一貫校） ガイメア  
ベイパブリックスクール（公立小学校） キラウィーハイスクール（公  
立中高等学校） ウェラーズヒルズステートスクール（公立小学校） 他  
関係機関 ニューサウスウェールズ州教育省 クイーンズランド州教育省

#### II 研修のまとめ

##### 1 オーストラリアの教育

オーストラリアは多文化国家であり、先住民（アボリジニ及びトレス海峡諸島民）非英語母語話者（移民。海外生まれの人口は全人口の約4分の1であるが、その6割近くが英語を母語としていない）など、言語的・文化的に多様な背景をもつ児童生徒が共に学んでいる。連邦レベルの教育行政は、教育省が担当している。州レベルでは、教育は憲法上、州の責任とされていることから、教育を所管する省が設置され、学校・教育課程・評価・人事など教育に関する行政を行っている。オーストラリア全体のカリキュラムが一つになったのは最近で、ウェブ上で運営され、各州、各学校で活用されている。しかし、従来のカリキュラムを扱っている州もまだ残っているのが現状である。

一般に各々の学校の授業は、オーストラリア・カリキュラムを基に作成された州の大まかなシラバス（学習計画）を使って、学校独自の教育を行っている。学校（校長）の特色や、子どもの興味を生かした授業も認められている。教科書がないため、学校で自由に教材を作ることにもできる。ただどの学校にも共通していることは、日常的に、児童生徒の発想や学習意欲を大切にしたい、ディスカッション等を取り入れたコミュニケーション力・言語力を育成する授業を行っていることである。

##### 2 オーストラリアの学校と地域との連携

オーストラリアでも日本同様、学校と家庭・地域との連携は密に行われていた。連携を取りながら、地域施設や家庭それぞれが子どもの教育に責任をもち、自立した個を育てようとしている様子が伺えた。また、アフタースクールや図書館等における子どもたちの活動は、日本に比べて自由度が高く主体的である。子どもたち同士がコミュニケーションをとり、かつ、大人との関わりから対人関係を学んでいく場となっていた。オーストラリアの子ども達は自己肯定感が高いという。子どもたちを取り巻く環境が大きく関わっているのだと感じた。

（日下部小学校 山宮 由紀）